

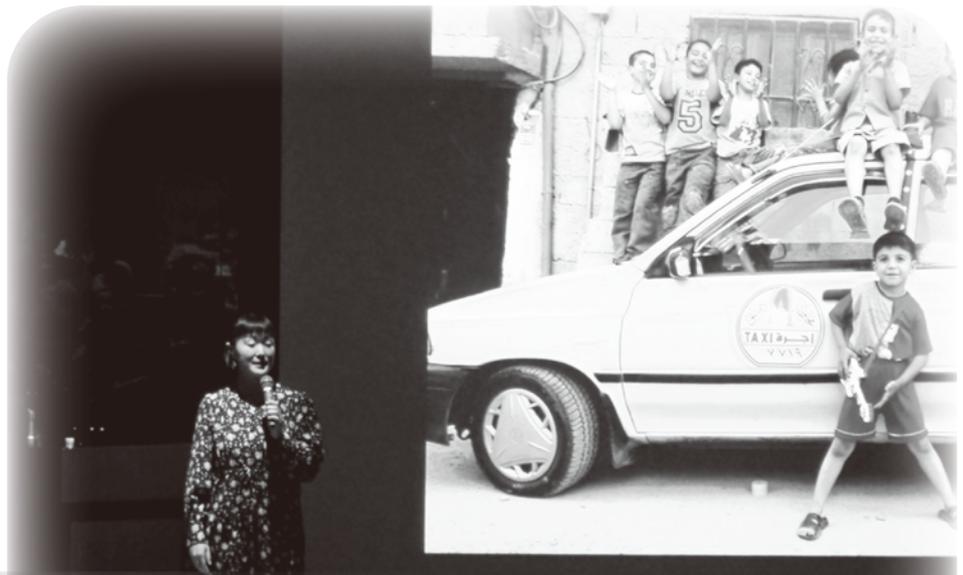
共生

奈良県生協連

2025年1月

NO.135

ピースアクション in なら2024 ▶



◀ 第29回奈良県協同組合デーのつどい

もくじ

新年のご挨拶：森宏之奈良県生協連会長…	1	2024年度第2回生協・行政協議会……………	7
新年のご挨拶：山下真奈良県知事……………	2	能登豪雨災害支援活動……………	8
ピースアクション in なら2024……………	3・4	エイブル・アートSDGsプロジェクト……………	9
第29回奈良県協同組合デーのつどい…	5	関西消費者団体連絡懇談会……………	10
2025年国際協同組合年を見据え……………	6		

2025年、奈良県生協連35年の活動経験を 生かして、2回目の国際協同組合年に ふさわしい一年にいたしましょう

奈良県生活協同組合連合会 会長 **森 宏之**



奈良県生協連の会員及び組合員のみならず、新年おめでとうございます。昨年は年初から石川県能登半島地震被災地への支援活動、県下の全自治体首長様への訪問活動、さらには「奈良県生協大会」のジャーナリスト浜田敬子さん講演、「ピースアクションinなら」のフォトジャーナリスト安田菜津紀さんの講演会をはじめとした諸企画に取り組むなど多忙な一年となりました。本当にお疲れ様でした。その中でも奈良県生協連の様々な活動に対して、県下の諸団体、各方面から大きなご協力とご支援もいただきました。誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

世界各地で災害が多発し、またロシアによるウクライナ侵略の継続、パレスチナ問題の混乱の深刻化など、平和の危機が到来し、人類の未来にとって暗いニュースが多かった一年でした。反面で嬉しかった明るいニュースは日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）のノーベル平和賞の受賞でした。世界は破壊と分断、争奪と混乱の新たな時代に入ったように思われますが、今こそ世界中のすべての人々が平和と豊かさを享受できるような新しい世の中に変えるために、世界中で市民の行動が必要な時代になっているともいえるでしょう。

さて、奈良県生協連は9つの会員生協で県下40万人の組合員を組織するにいたりました。この間35年の取り組みの中で培ってきた力は

まだまだ小さいものではありますが、食とくらし、平和、環境、福祉、防災の5つの分野で地域社会の一員としての行動を積み重ねてきました。最近では子どもや高齢者への生活支援、地域環境保全や再生可能エネルギーの普及や健康省エネ住宅のリフォーム支援制度構築、地域での障がい者雇用創出などの社会問題の解決につながる活動にも力を注いでいます。そして、県連活動の指針として、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の諸課題に対応した取り組みを推進しています。

今年2025年は、これらの取り組みを生かして、たすけあい協同の心を大切にし、「誰一人も取り残さない」安心してらせる地域づくりをすすめる課題に再挑戦する年にしたいと考えます。また、生活協同組合をはじめとし、農業協同組合、森林組合、労働者協同組合など協同組合同士の交流連携を基礎にして県行政並びに市町村の生活担当分野の皆様、奈良県社会福祉協議会、奈良県地域婦人団体連絡協議会をはじめとした各分野の団体の皆様とのさらなる連帯強化を模索しながら、SDGsの諸課題に真剣に取り組んでまいります。

今年の干支は「乙巳（きのとみ）」です。よき時代の復活とよりよき世界への再生の年です。チャレンジ精神をもって地域共生社会づくりを前進させる年にしましょう。協同組合の活動を奈良県隅々まで広げて参りましょう。

奈良県生活協同組合連合会並びに 会員生協の皆さまに、 令和7年の初春のお慶びを申し上げます。

無限の可能性を引き出すために

奈良県知事 **山下 真**



明けましておめでとうございます。昨年は、元日の能登半島地震に始まり、非常に暑く長い夏があり、ウクライナや中東での戦闘も激化し、穏やかな一年とは言い難かったように思います。一方で、大谷選手やパリ五輪の日本選手など若い方の世界レベルの活躍に勇気付けられました。

未来への種をまいた一年

奈良県に目を転じますと、私が知事就任後初めて編成した予算を執行し、県の発展に向けてさまざまな種まきができたとおもいます。教育や子育て支援の分野では、私立高校の授業料の実質無償化を4月から始めました。これにより私立高校の入学者が増加しました。県立高校の「トイレピッカピカ5か年計画」もスタートしました。公立小中学校の教員の業務負担を減らすために始めた県の新たな補助制度により先生をサポートするスタッフの数を大幅に増やし、8割以上の学校に配置することができました。不足する保育士を増やすための給与加算制度も県が新たに補助を始めたことにより、制度を導入した市町村が5市から22市町村に増加しました。

インフラ整備では、道路の環境改善のための「ならの道リフレッシュプロジェクト」の5か年計画が昨年からはじめました。また、県と県内の26市町村の水道事業の統合が4月から始まります。医療の分野では、西和医療センターの移転建替えや県立医科大学附属病院の外来棟建替えの計画策定が順調に進んでいます。

産業や観光の分野でも新しい政策がどんどん進行しています。企業の新規立地や建物の増改築のための補助金制度を充実させ、ホテルの

新規立地のみが対象だった補助金を既存建物の改修にも広げました。これらの制度により新たな投資がどんどん進んでいます。また、企業の人材や用地の確保の支援、スタートアップ企業の応援などにも取り組んでいます。観光では、大阪観光局や多くの民間企業と連携協定を締結し、外部の力も借りて奈良の観光を盛り上げようとしています。

ただ、奈良県が持つ限りない可能性を最大限に引き出し、県民の皆さまに暮らしの豊かさを実感していただくための取り組みはまだ始まったばかりです。まいた種が花を咲かせ、実をつけるには、長い年月が必要です。その間、私と県職員が一丸となって粘り強い努力を続けるために、引き続きのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

県民の安全・安心な暮らしを 実現するために

奈良県生活協同組合連合会におかれましては、県内生活協同組合の「要」として、各組合との調整やご指導などにご尽力いただくとともに、食の安全・安心、福祉、環境エネルギー、消費者問題など、様々な暮らしの課題に“協働と連帯”で取り組まれ、また、地域づくりにも参画いただくなど県民の生活に関する幅広い分野でご尽力いただいていますことに、御礼申し上げます。

地域で生活者との繋がりを大切にされている活動は、県民の安心・安全な暮らしの実現に貢献いただいていると実感しています。引き続きご協力をお願い申し上げます。

今年が奈良県と貴連合会並びに会員生協の皆さまにとって、素晴らしい年となることを、心より願っています。

紛争地、被災地に生きる人々の声

～取材から見えてきたこと～



10月20日奈良公園バスターミナル・レクチャーホールにおいて「ピースアクションinなら2024」がピースアクションをすすめる会(奈良県生協連とならコープ平和の会)主催で開催され事務局を含め200名の参加がありました。

ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や、パレスチナ・ガザ地区での紛争により、罪もない市民や乳幼児が犠牲になり、食料や水はもちろん、衛生環境の悪化も深刻な状態となっています。また、核抑止論の正当化によって核兵器使用のリスクはかつてないほど高まり、世界は今、平和の危機に直面しています。そこで、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんから「紛争地、被災地に生きる人々の声～取材から見えてきたこと～」をテーマに講演いただきました。



会場の様子



講師：安田 菜津紀さん

国際紛争が続き、分断が深まる世界情勢の中、ガザ地区とシリアでは、ここ数十年にわたり激しい紛争が続き、多くの命が失われてきました。ガザ地区では民間人の犠牲が続き、シリアでは内戦が激化し、難民の流出や都市の破壊が続いています。これらの紛争地では、日々命を落とす人々の姿や、家族が引き裂かれる現実が広がっています。安田菜津紀さんの講演をお聞きし、ガザ地区やシリアで撮影された写真や人々の声を通じて、私たちはその痛みや希望、絶望を共有することが大切で、無関心こそが問題であると気づききっかけとなりました。

また、東日本大震災の発生から被災地を取材し、写真を通じて復興の状況や被災者の声を伝え続けておられます。陸前高田の『奇跡の一本松』の写真は、被災者の心情や震災の記憶がどれほど深く刻まれているかを伝える重要な役割を果たしており、復興への希望と同時に、失われたものへの思いが込められていると思います。



会場入口



安田菜津紀さんの講演は、現在の国際的な紛争や分断された世界情勢を深く考えさせる内容でした。ガザ地区やシリア、陸前高田の写真と人々の声を通じて、紛争や核リスクの実態を知ることができました。安田さん自身の危険を伴う取材経験からの言葉は、心に強く響きました。表情豊かで優しい語り口が、重いテーマを受け入れやすくしていました。紛争地の厳しい現実と、かつての平穏な日常との対比が、日常の大切さを実感させました。安田さんの言葉には、今の社会への憤りや子どもたちへの愛情、希望が込められており、身近な問題として強く感じる事ができました。

その後リレー報告がおこなわれました。

Peace Now! 奈良2024報告
未来を広げる第一歩
～自分で平和を見つけよう～



奈良女子大学
(左から) 宅明風佳さん 中谷天音さん 河合怜佳さん

小学生ヒロシマの旅
2024報告



(左) 小山詩月さん (右) 小山幸恵さん

ピースアクションをすすめる会
の活動報告



永野博子さん(ピースアクション実行委員)

アンケート

全ての生きている人たちは尊重されるべきだ、という一筋の強いメッセージを届けてくださった安田さんのお話は、それを起点に様々に想いを馳せることの出来る意義深い体験でした。

リレートークにあった奈良教育大学の戦跡って何だろうと帰宅後さっそく調べてみました。知らない事が沢山あることに驚きと若い世代の人がしっかりと引き継いでくれていることを嬉しく感じました。しずくちゃんのヒロシマの発表も彼女の言葉で怖いと思うことが正解だと語ってくれたのが印象深かったです。

世界はつながっていると、思わせられた時間で安田さんの様な自分事として正しく捉えられる伝え手がいらっしやる事を改めて認識しました。

北朝鮮のロシア派兵のNEWSなど明日を脅かす事がどんどん増ってきて、今、本当に平和を守らなければと危機感が募っています。

「世界平和」を願わずにいられない今日この頃です。一人の地球人として何かできることはないのかと思い、参加させていただきました。何か小さなことからでも踏み出したいと思いました。

とても衝撃的な内容の一方、映し出された子供たちの笑顔の写真に胸が詰まる思いでした。

まず無関心にならず関心を持つことの大切さを知りました。産まれた国、環境によって過酷な生活を余儀なくされている人たち子供達の笑顔が戻るように一日でも早く平和な世界が訪れるように私は今日聞いたことを伝えて行きたいと思います。

小学生の方の報告、自分の言葉で色々考えて伝えてくださり考えさせられました。『家族で過ごすのが一番』本当にそうだと思います。ありがとうございました。

平穏な日常が突然に壊されている現場が身の回りに起こりうる事を改めて感じました。

生きのこってしまった苦しみ罪悪感を背負いながら生きてこられた被爆者は、生き残ってしまった罪悪感、回りからの差別、それでも勇気を持って発信を続けてこられた、そのお陰で私たちは核戦争の恐ろしさを身近に学び、守られてきたんだ。ふみにいられてきた人権のうえに私たちの平和があったんだ。

我が身の無力も思いつつ、でも諦めずに小さな小さな一歩でも一人一人が安田さんの語ってくれた視点を持っていくことを実践していきたい。

今まで一番物資が少なくしか届いていないというが、地区の人たちのことを思っています。できることを日本にいても何かできることを私もしたいと思いました。

第29回

奈良県協同組合デーのつどいが 開催されました

昨年は8月の台風10号により延期された、第29回奈良県協同組合デーのつどいが12月6日農協会館5階にて開催され89人が参加しました。協同組合デーのつどいは奈良県協同組合連絡協議会(奈良県農業協同組合中央会、奈良県農業協同組合、全国共済農業協同組合連合会奈良県本部、奈良県森林組合連合会、奈良県生活協同組合連合会)の主催で県内協同組合間協同の促進と情報交換を図るため毎年開催されています。

連絡協議会委員長で奈良県農業協同組合経営管理委員会会長 村本 佳宜氏の開会あいさつの後、来賓代表として奈良県環境森林部県産材利用推進課 主幹 稲葉 水穂氏から祝辞をいただきました。



会場の様子

今回は毎年のように発生している災害に対し、その備えと人と人とのつながりである協同組合として、被災時の活動を考える機会とするため、「モノとココロの備え講座」を防災コネクター(防災士)沖本 可奈さんに講演をいただきました。



講師：沖本 可奈さん

モノとココロの備え講座

- 知る** 内陸型地震・海溝型地震・ハザードマップ・一斉帰宅の抑制
- 備える** 情報・連絡手段・在宅避難・立退避難
- 実践する** 木製トイレ椅子・防災まちあるき表示付き炊き出し
- 繰り返す** 何度もやってブラッシュアップしよう
- 協力** 地域の女性たちと一緒に・PTA・家庭教育学級・ボランティア団体・自治会(町内会)自主防災組織
- 伝える** 被災地での出来事



次に奈良県森林組合連合会 参事 西本 隆晃氏から「2025年、国際協同組合年がやってくる」の提案がありました。

講演の後、日頃目にはしていても、なかなか食べることはない防災食を参加者全員で試食しました。「これが防災食?」「どうやって作ったの?」など試食を通じて参加者たちは防災食の種類や使い方についても学びました。また、防災トイレなど防災品の展示もあり普段から備えておくことで、万が一の時に心強い支えとなることを実感し、重要性を再認識しました。

最後に奈良県生協連 森会長より「これまでも医療生協の立ち上げや、吉野の森と水を守る運動など協同の力を活かして歴史を積み重ねてきました。来年以降も奈良県をより住みやすくするために、協同組合の力を結集し新たな取り組みを実践していきたいと思います。」と閉会の挨拶がありました。



試食の様子

2025年の国際協同組合年を見据え

～奈良県生協連の取り組み～

趣旨

2025年の国際協同組合年にむけ、2025国際協同組合年(IYC2025)[※]全国実行委員会からの呼びかけで、SDGs等へ貢献する協同組合の振興を目的としてIYC2025が定められました。

奈良県生協連は、協同組合の発展と認知度向上の絶好の機会としてIYC2025を活かす機会にします。さらなる協同組合のアイデンティティの発揮とSDGs達成への貢献に向けて、「学び」「実践し」「発信する」取り組みを推し進めます。

IYC2025のテーマは、「協同組合はよりよい世界を築きます」です。協同組合の価値、協同組合間協同、生協のガバナンス、世界情勢との関連で「学び」をすすめ、違う角度からさらに「学び」を深め、協同組合間連携の「実践」を模索します。

※日本協同組合連携機構(JCA)が呼びかけ、SDGsへのさらなる貢献と協同組合の認知向上を目指し、全国組織や賛同団体が参加し発足



国際協同組合年

すすめかた

1

「学び」について、2025年1月18日に第34回奈良県生協大会を開催し、IYC2025のキックオフと位置付けます。協同組合の強みをテーマに、日本協同組合学会会長で関西大学商学部教授 杉本 貴志氏を迎え、組合員、市民、役職員とともに「学び」「考える」機会とします。一つの組織・運動を対象にした国際年を2度も設けるのは、たいへん異例なことです。地域(コミュニティ)に焦点を当てて、その意味を考えたいと思います。

リレー報告として・地域共生社会への取り組み・防災支援活動の取り組み・JAグループ奈良の取り組み・奈良県森林組合連合会の取り組みを協同組合の事例を共有します。

2

2月27日には、2024年度生協組合員理事交流会を開催し、協同組合について「学び」をさらに深めるために賀川記念館を訪問し、館長 馬場 一郎氏(コープこうべ理事長)から、賀川豊彦の活動、精神から生協間の連携・協力の大切さについて学びます。

3

3月23日には、協同組合間の連携と協力をはかるIYC2025プレ企画として、「奈良の食と農を考えるマルシェ」を開催します。地域の資源を活用し、おいしい農産物を生産され、農業・農村の機能維持、環境保全を含め、たゆまない努力をされている生産者・生産団体が多数おられます。マルシェは、生産者・生産団体と消費者・市民および事業者との交流、コミュニティを通じて食と農について一緒に考え、地産池消や国内生産物の利用促進をはかり食料自給率の向上、SDGsの達成をめざす機会にします。マルシェを共有の場として取り組みます。

組合員の加入動機の一つである「家族に安心して食べさせたい」に深く関わりがある、低い食料自給率の問題、日本の食料安全保障と生協の果たす役割について、東京大学大学院教授 鈴木 宜弘氏を迎え、協同組合の果たす役割を考える機会とします。

4

そして2025国際協同組合年(IYC2025)、2025年度第30回奈良県協同組合デーのつどいにつなげ、協同組合間連携を強め、協同組合の発展と認知度向上の機会にします。

2024年度 第2回 生協・行政協議会



11月21日奈良女子大学 学生会館にて、2024年度第2回生協・行政協議会を開催しました。奈良県生協連が、10月に奈良県に提出した「2025年度に向けての要望書」について意見交換しました。

奈良県 地域創造部 県民暮らし課から藤本課長、松原課長補佐、澤田主査、保田主査に出席いただき、2025年度県行政にむけた6項目の要望に対して、県民暮らし課が奈良県の窓口となり各部局で要望内容を一つ一つ丁寧に回答いただきました。

奈良県生協連「2025年度奈良県行政に向けての要望書」のポイント

1. 地産地消の推進と食料安全保障

- (1) 日本のおいしいお米の生産を増やして国内消費の推進と輸出等の施策。
- (2) 生産者がやりがいと意欲を持ち安心して農業に従事できる所得増大と価格保障の充実。



2. 地域医療の充実、2024年度介護保険制度改定への提言

- (1) 介護人材および施設が不足しており、市町村の計画への組み込み。
- (2) 健康保険証のマイナカード一本化について、健康保険証廃止の撤回、いのちと健康を守る体制。

3. 「ひと部屋断熱」健康省エネ住宅の普及

- (1) 住居者の金銭的負担をできる限り少なくし、いのちを守るための「ひと部屋断熱」だけでも改修の推進。
- (2) 奈良の木材を使う健康省エネ住宅の普及が林業の活性化と県民の健康長寿につながる情報提供。

4. 消費者被害の防止と被害回復について

- (1) なら消費者ねつとの適格消費者団体認定後の県行政との密接な連携。
- (2) 若者向けの消費者教育による消費者被害防止、高齢者や障がい者のくらしの不安解決に向けた施策と体制づくり。

5. 奈良県の防災と能登半島地震被災地支援

- (1) 大規模災害(地震)を想定し、多様な主体が連携・協働できる体制の整備に向けた取り組みの推進。
- (2) 河川管理における市町村との連携強化。

6. 労働者協同組合の推進と支援

- (1) 多くの労働者協同組合が設立されるよう育成・支援策をより充実。

能登豪雨災害 支援活動



参加した大阪府連のみなさんと



もとやスーパー内の泥出し作業の様子

コミュニケーションを取っておられました。10月5日・6日は、豪雨による河川の氾濫で土砂や瓦礫が流れ込んだため営業ができなくなった「もとやスーパー」の泥出し作業に参加しました。店内に流れ込んだ土砂の中から、商品と異物、泥に分別して運び出す作業を行いました。明かりのない薄暗い店内で、異臭を放つ土砂の中にはガラスの破片なども交じっており思っていたよりも危険で、非常に過酷な作業でした。しかし、早くこのスーパーをきれいな状態にして再開できるよう、参加者全員が協力して作業を進めました。豪雨直後は営業再開など考えられないほど絶望的な状況だったと聞きました。しかし、店長の本谷さんがご自身でSNSを通じて、被災状況と支援の呼びかけを行った結果、震災後の支援活動に関わった方々を中心に、全国から支援者が集まりました。そして、11月9日にはついに営業再開に至ったことを報道で知り、共助の力とその大切さを深く実感しました。また、今回訪れた仮設住宅では、豪雨による被害は比較的少なかったものの、石川県の試算によると、輪島市、珠洲市、能登町の3市町で泥出しが必要な宅地は約2,600ヶ所に上り、依然としてボランティアが必要な状況です。さらに、地震による被害の復旧も進んでいない中で、再度豪雨に見舞われた方々は、不安を抱えたまま仮設住宅や半壊した自宅で冬を迎えています。現地の方々の心情を思うと、今後も息の長い寄り添った支援を続けていきたいという思いが一層強くなりました。



炊き出しの様子

9月20日から22日、石川県能登半島で発生した豪雨災害で、6月に炊き出し支援に参加した輪島市町野町(もとやスーパー)が再び甚大な被害にあわれました。今回も大阪府生協連と相談し10月2日・3日炊き出し、10月5日・6日泥出し作業に参加してきました。

10月2日・3日は輪島市仮設第一団地前で1日目お弁当、2日目焼きそばの炊き出しを行いました。雨天にもかかわらず、両日とも用意した各400食がすべて時間内になくなるほどの多くの方の参加がありました。今回は大阪府生協連の会員生協から組合員理事さんが多数参加され、お弁当を手渡す際に言葉を交わすなど、被災者の方と積極的にコ



メーションを取っておられました。10月5日・6日は、豪雨による河川の氾濫で土砂や瓦礫が流れ込んだため営業ができなくなった「もとやスーパー」の泥出し作業に参加しました。店内に流れ込んだ土砂の中から、商品と異物、泥に分別して運び出す作業を行いました。明かりのない薄暗い店内で、異臭を放つ土砂の中にはガラスの破片なども交じっており思っていたよりも危険で、非常に過酷な作業でした。しかし、早くこのスーパーをきれいな状態にして再開できるよう、参加者全員が協力して作業を進めました。豪雨直後は営業再開など考えられないほど絶望的な状況だったと聞きました。しかし、店長の本谷さんがご自身でSNSを通じて、被災状況と支援の呼びかけを行った結果、震災後の支援活動に関わった方々を中心に、全国から支援者が集まりました。そして、11月9日にはついに営業再開に至ったことを報道で知り、共助の力とその大切さを深く実感しました。また、今回訪れた仮設住宅では、豪雨による被害は比較的少なかったものの、石川県の試算によると、輪島市、珠洲市、能登町の3市町で泥出しが必要な宅地は約2,600ヶ所に上り、依然としてボランティアが必要な状況です。さらに、地震による被害の復旧も進んでいない中で、再度豪雨に見舞われた方々は、不安を抱えたまま仮設住宅や半壊した自宅で冬を迎えています。現地の方々の心情を思うと、今後も息の長い寄り添った支援を続けていきたいという思いが一層強くなりました。

12月21日にも、大阪府生協連、滋賀県生協連、奈良県生協連、ならコープ、とやま生協の42人による炊き出し。昼食(牛丼・具だくさん味噌汁・パンケーキ) 夕食(焼そば・たこ焼き・チキン)それぞれ400食を手渡しました。

エイブル・アート SDGs プロジェクト 「ARTS in CO-OP」



ARTS in CO-OP コープ七条 オープニング



プライベート美術館へ作品選び

11月16日～12月8日エイブル・アートSDGsプロジェクト実行委員会主催の「ARTS in CO-OP」(生活とアートの協同)をならコープのコープ七条で開催しました。

アーティスト7人12作品と過去の作品が、店内入口や売り場に展示され、来店した組合員の共感を得ることができ、組合員が障がい者のふだんの生活により近づく取り組みとなりました。さらに、展示内容をより理解できるよう展示説明に関連したクイズを実施しました。来店された組合員のみなさんは買い物しながら、または買い物後にそれぞれクイズラリーに真剣に取り組まれており、その姿が印象的でした。

近畿労働金庫とたんぼぼの家(奈良市)は、2000年からアートをとおして社会をもっと豊かにする「エイブル・アート・プロジェクト」を推進してこられました。障がいのある人たちの生み出す表現を地域の人たちが親しむ環境を創ったり、アートをとおして近畿二府四県の各地域に新しい魅力を発信してこられました。

このたびの「ARTS in CO-OP」は、ならコープの店舗を舞台に、障がいのある人のアートと地域の人々の生活を近づけるプロジェクトです。生活に密着した場で、生活に根差したアート体験をする機会を作ることで、地域の人たちが芸術文化に触れ、これまでにない視点で障がいのある人の存在を伝え、誰一人取り残さない地域共生社会の実現に寄与するものです。

近畿労働金庫から、奈良県生協連に相談があり、近隣のコープ七条が好適だと即座に判断し、ならコープにつながりました。北エリア本部長の河原執行役員も迅速に判断され、エイブル・アート実行委員会を、近畿労働金庫、たんぼぼの家、ならコープ、奈良県生協連の4者で立ち上げました。単にアートを展示するのではなく、「知る」「見る」「交流」「学ぶ」という観点を大切にしました。

今回の取り組みは以下です

7月には、数回に分けて数十名のならコープ職員が、たんぼぼの家・アートセンターHANAのアートギャラリーを見学させていただき、障がいのある人たちのアートを取り巻く状況を学びました。

- ・7月13日コープ七条職員を対象に、たんぼぼの家による学習会が開催されました。

- ・7月27日たんぼぼの家・みんなの広場らんまん(大和郡山市)・ひまわりの家(三宅町)・Good Job!センター香芝(香芝市)から、障がい者アーティスト4人を含む11人がコープ七条に来訪され、売り場・商品・バックヤード・職員の働きを見て聞いて回り、関心のあることをアート(絵)にされました。

- ・8月27日ならコープ北エリア一体感のある取り組みとして5店舗で障がい者が制作したアート作品をプライベート美術館として取り組みました。各店舗の職員が多くのアート作品を見て、最も心を動かされた作品を選び、その選んだ理由とともに店舗に展示されました。

- ・9月25日近畿労働金庫が協力するFMラジオ番組「KYOTO SOCIAL WAVE!」(放送局:NPO京都コミュニティ放送「京都三条ラジオカフェ」9月27日放送分)に、たんぼぼの家・ならコープ・奈良県生協連が出演し、「エイブル・アートSDGsプロジェクト2024」について話をしました。

- ・10月22日コープ七条にて2人のアーティストによる公開制作が開催され、来店された組合員は興味深く見守りました。



店内展示作品

関西消費者団体連絡懇談会 による定期懇談

関西消費者団体連絡懇談会（以下、関消懇）は、全大阪消費者団体連絡会が代表世話人となり、関西の消費者団体（滋賀県生協連、コンシューマーズ京都、安全食品連絡会、奈良県生協連）から、毎年出席して関西電力と大阪ガスとの懇談会を開催しています。双方とも異動で出席者は入れ替わりますが、1973年の料金値上げ問題をきっかけに、消費者の立場で懇談を長年継続し、奈良県生協連も設立の1990年から参加してきました。

関西電力電気事業経営問題懇談会

11月20日に関西電力と電気事業経営問題懇談会が関電ビル会議室で開催され、関西電力からは13名、関消懇から11名（奈良県生協連2名）出席しました。

組織風土改革の進捗、料金値下げの要望、ゼロカーボンロードマップ中の再生可能エネルギー・原発の位置づけと需給調整問題、大阪万博チケットの大量購入・IRへの投資の認識・パーティ券購入の有無など5つのテーマで懇談しました。消費者側からの意見を受け、回答の後さらに意見交換をしました。能登半島地震の経験を経て、原子力発電所の安全対策に関するコストの上昇、原子力発電所事故の懸念、放射性廃棄物処理計画の実現性への懸念など、消費者の意見を伝えましたが、平行線のままでした。



関西電力との懇談会の様子
写真提供：関西消費者団体連絡懇談会



大阪ガス懇談の様子
写真提供：関西消費者団体連絡懇談会

大阪ガス定期懇談会

11月29日、大阪ガス本社のガスビルで定期懇談会が開催され、大阪ガスから11名、関消懇から11名（奈良県生協連2人）が出席しました。大阪ガス側からのDaigasグループの「中期経営計画2026」の報告を受けました。その後、大阪ガスが進めている「eメタン」の進捗が加速する気候危機に間に合うのか、国際会議を経て世界の化石燃料や気候危機に対する認識とずれはないか、従業員が働きやすくするための働き方の多様性の取り組みや、大阪万博のチケット大量購入やIRへの投資についての認識など、活発な質問と意見交換がされました。高齢化が進む中、大阪ガスの「住ミカタ・サービス」という生活密着の取り組みを進めている報告がありました。株主への配

当が増え会社が好調な中で、消費者はガス・電気料金などの値上げで生活が苦しくなっているのが現実であり、安定供給と共に、料金の引き下げが望みである事を伝えました。

10月

- 1日(火) 川上村泉谷村長懇談
奈良県協同組合連絡協議会
事務局会議
- 2日(水) 組合理事交流会実行委員会
(令和6年)近畿地方LPガス懇談会
- 3日(木) 紀伊半島3生協防災・災害
支援協議会
- 2日(水)～3日(木) 輪島市もとやスー
パー炊き出し支援
- 5日(土)～6日(日) 輪島市もとやスー
パー泥出し支援
- 6日(日) 葛城市市制20周年記念式典
- 8日(火) 奈良防災プラットフォーム検討会
ピースアクションをすすめる会
- 14日(月) 奈良県の被爆者の声・手記
集第2集編集委員会
- 20日(日) ピースアクション in なら2024
(安田菜津紀さん、リレー報告)
- 22日(火) エイブル・アートコープ七条
- 23日(水) エイブル・アート実行委員会
- 24日(木) 奈良県災害医療防災学習
なら消費者ねっと理事会
- 25日(金) 近畿地区府県連協議会・滋賀
- 28日(月) 吉野共生プロジェクト推進委員会

- 29日(火) 令和6年関西広域応援訓練(図上)
- 30日(水) 令和6年奈良県農村活性化
推進委員会

11月

- 2日(土) 東和中和南地区医療防災会議
- 5日(火) 奈良県協同組合協議会事務局
会議 憲法学習会実行委員会
- 6日(水)～7日(木) 日本生協連・創立
75周年記念事業視察訪問
- 8日(金) 2024年度上期監事監査
- 9日(土) ジェルコー 部屋断熱フォー
ラム奈良
- 14日(木) 生協しまね40周年記念式典
- 16日(土) エイブル・アート「ARTS in
CO-OP」コープ七条店開催
- 19日(火) 奈良防災プラットフォーム
連絡会定例会
ピースアクションをすすめる会
- 20日(水) 奈良県 農村振興課協議
関電経営問題懇談会
- 21日(木) 第2回生協・行政協議会
第4回理事会
- 25日(月) 吉野共生プロジェクト推進委員会
- 27日(水) 令和6年関西広域応援訓練実働
- 28日(木) 関西地連 第3回運営委員会
県連活動推進会議
なら消費者ねっと理事会

- 29日(金) 大阪ガス懇談会
- 30日(土) 第6回協同組合地域共生フ
ォーラム

12月

- 4日(水) 下市町仲嶋町長懇談
- 5日(木) 2024ピースアクションオンラ
イン報告会(日本生協連)
- 6日(金) マルシェ実行委員会・第29回
奈良県協同組合デーのつどい
- 10日(火) 近畿地区府県連協議会・
近畿農政局打合せ
- 11日(水) JAならけん寄贈米・こども
食堂お渡し
- 13日(金) 奈良女子大学生協・フード
パントリー
- 14日(土) 災害時における多様な主体間
の連携を考えるフォーラム
- 17日(火) 奈良県農業再生協議会総会
- 18日(水) エイブル・アート実行委員会
- 19日(木) 令和6年度消費生活協同組
合指導検査(奈良県生協連)
- 21日(土) 輪島市もとやスー
パー炊き
出し支援
- 26日(木) なら消費者ねっと理事会
- 27日(金) 令和6年度消費生活協同組
合指導検査(ならコープ)

お知らせ

第34回奈良県生協大会 ―協同組合っておもしろい!―

協同組合の強みを生かし地域社会に貢献するために

～2025国際協同組合年、生協に期待されるもの～

基調講演：杉本 貴志氏(日本協同組合学会会長 関西大学商学部教授)

日時 2025年1月18日(土) 会場 奈良県コンベンションセンター 204号(奈良市三条大路1丁目691-1)

定員 200名 参加費無料 申込・お問合せ：奈良県生活協同組合連合会 電話0742-34-3535(月～金 9:00～17:00)



編集後記

能登半島地震から一年、いまだに復旧とはいえない「もとやスーパー」が全国のボランティアによる支援によって十一月営業復活!! 木谷社長談「地域の心の灯火を消してはならない」地域を想う心底の強さに逆に元氣ももった。

“被団協”が流行語大賞にノミネートされた。被団協のノーベル平和賞受賞理由の一つ一つに感銘を受けた。次は“核兵器禁止条約”か “核兵器廃絶”がノミネートされるように!! 受賞はゴールではなくスタート!!

「あなたの夢は？」と聞かれて「この年になって、ないなあ」というサザエさんの波平さん。「ないのは今が幸せだからですよ」とイササカ先生。自分に置き換えて考えた。「私の夢ってなんだろう？」皆さんの夢は？

ようやくこの季節らしい気候となりました。冬の冷たい空気の中、畑仕事の合間に熱々のコーヒーを飲むのが至福のひとつです。そして、畑の日照を妨げる庭木を切りたくてたまらなくなる今日この頃。

今年(乙巳(きのとみ))の年。これまでの努力や準備が身を結び始める年だそうです。何か努力してきたわけではないけれど、何かよい物にすることができればいいな。

(佳)